

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会  
第14回全国障害者スポーツ大会専門委員会 議事録(概要)

1 日時:令和6年1月24日(水)午後1時～午後3時10分

2 場所:滋賀県農業教育情報センター1階 第2研修室

3 出席委員(五十音順、敬称略)

伊勢坊美喜、大平眞太郎(WEB 出席)、川並正幸(WEB 出席)、近藤寛子(WEB 出席)、澤田喜之(WEB 出席)、高木正二郎(WEB 出席)、辻和美、中西久美子、永浜明子(WEB 出席)、中道莉央(WEB 出席)、中村敦夫(WEB 出席)、西山克哉(WEB 出席)、新田正紘、長谷川貴也、原陽一、増田圭亮(委員総数 19 名のうち、小倉委員、北田委員、安武委員の3名は欠席)

※事務局:辻睦弘事務局長 他約20名

4 会議概要

報告事項

※事務局から、「燃ゆる感動かごしま大会視察報告」について報告。

【質疑】

<委員> 輸送交通について、かごしま大会の閉会式会場では、路上に多くのバスが停まっており、通行止めの時間も夜8時くらいまで続いている状況だった。路上での乗降は車いすの方も含め時間がかかるが、視察された際の路上の乗降の状況について聞かせていただきたい。

<事務局> 障スポ大会の閉会式における路上乗降について、かごしま大会では閉会式の終了直後と、19時前にあった。滋賀県でも会場周辺でバスに乗降できないか検討中。悪天候等で足元が暗くなる際の案内対応等、できるだけ選手に負担をかけないように輸送計画を検討する。

<委員> 視察報告書にはリフト付きの車や、大型バスについてもワンボックスタイプのリフト付きバスの写真が掲載されている。滋賀県において、リフト付きのバス等が計画的に準備されているのか伺う。

<事務局> バス、福祉タクシーについては、いずれも十分ではない状況。そのため、近隣の府県からバスやタクシーをお借りして今後対応しなければいけないと考えている。

<委員> 近隣府県から借用となるとかなりの台数が確保できると思うが、台数が増えるとその分駐車スペースが必要等の問題が出てくる。乗降や雨天時の対応について、十分検討いただきたい。

<委員> かごしま大会は、大会延期決定から3年越しの大会ということもあり、県民のエールがすごかった。滋賀県においても開催する以上は一般観覧者への対応も必要であり、一般の方でも、リフト付きのバス等を手配せざるを得ないのではと考える。滋賀県ではバスの台数等が少ないという実態があるので、それを踏まえて検討いただきたい。

<事務局> 県内では福祉タクシーやリフト付きのバスが少なく、近隣府県に借りなければならない状況。既に京都府、福井県、岐阜県などの近隣府県には協力依頼をしているところであり、必要台数は確保したうえで大会を迎えたい。一方、大会期間中は観光シーズンでもあり、障スポは万博の影響も大きいと考えている。そこも調整しながら準備に努めて参りたい。

<委員> ボッチャ競技において滋賀県選手団が乗る予定のタクシーに他の選手団が間違っ  
て乗車してしまっ  
た事例があり、輸送業務に従事していたボランティアの方と輸送担当との連絡がうまくいっていない  
部分があった。このような問題が起こり得ると想定した中で準備していただきたい。

<事務局> 当局の職員もボッチャ会場を視察した際に、競技運営の連絡がうまくいかなかったと聞いている。  
滋賀県大会の時にはそのようなことがないように、しっかりと連携しながら準備を進めて参りたい。

※事務局から、「カームダウンスペース」についておよび「わた SHIGA 輝く障スポの準備進捗状況」について報告。

#### 【質疑】

<委員> 選手団サポーターの養成について、県や市町の職員に対する障害のある方への配慮に係る研修は  
どのように検討しているのか。

<事務局> 選手団に配置する県職員の人選については、今後庁内から職員を動員して配置を進める。その職  
員に対しても事前学習の機会を設け、現場で活動できるように準備していきたい。

<委員> 選手団サポーターの養成について、障害種別に合わせた研修を予定しているか。

<事務局> 現在、選手団サポーターの学生の皆さんに事前学習をしていただくテキストを作成中。テキストでは  
障害の種別に合わせた対応のポイント等をまとめたものを作りたいと考えている。滋賀県では共通  
するテキストや授業の動画を使い、スタッフの方のレベル差を少なくするような工夫をしたい。

<委員> 障害者スポーツ大会が終わった後も、養成した方の人材の把握等、継続性を担保していくことが大  
事。選手団サポーターに協力される 23 校の学校名を教えてください。

<事務局> 23 校については、滋賀大学、滋賀医科大学、滋賀県立大学、びわこ成蹊スポーツ大学、龍谷大学、  
聖泉大学、長浜バイオ大学、立命館大学、成安造形大学、びわこ学院大学および短期大学、滋賀文  
教短期大学、びわこリハビリテーション専門職大学、大津赤十字看護専門学校、華頂看護専門学校、  
華頂社会福祉専門学校、滋賀県堅田看護専門学校、大津市医師会立看護専修学校、県立看護専  
門学校、草津看護専門学校、甲賀看護専門学校、県立総合保健専門学校、済生会看護専門学校。

<委員> 障スポは閉会式の選手等参加数や一般観覧者の数が国スポとは異なる。障スポの会場設計業務に  
おいては、国スポと同じ動線、ゾーニングで大丈夫かという視点で会場設計をしていただきたい。

<事務局> 国スポのゾーニングを参考にしつつ、障スポのゾーニングについて競技運営主管団体と協議を重ね  
ているところだが、今後、滋賀県障害者スポーツ協会や各競技の監督者等のご意見を踏まえて会場  
設計を行いたい。閉会式では大勢の選手たちがスムーズにバスに移動していただく必要があるので、  
国スポにはない障スポ専用の動線が必要だと考えている。それぞれの状況を踏まえて準備していく。

<委員> 会場設計について、カームダウンスペースは国スポにおいても設置していただけるのか。

<事務局> まずは、障害者スポーツ大会の競技会場、開閉会式会場に設けたいと考えている。先催県にない取  
組だが、これまでの全国障害者スポーツ大会専門委員会においてご意見をいただいていたほか、共  
生社会を目指すためにもしっかりと進めたい。この度改訂された「淡海ユニバーサルデザイン行動指  
針」においては、県施設にカームダウンスペースを設けることを基本としている。市町の施設におい  
ても、県全体でカームダウンスペースの設置を広げるため、機会があるごとに普及活動をしていき  
たい。補助制度等も検討しているところなので、それも利用していただきながら、国スポにおいても設

置が広まるような取り組みをしていきたい。

<委員> カームダウンスペースについては始めの一步だと思う。事務局の方には、これからも着実に取り組んでもらいたい。

#### 審議事項

※事務局から、「わた SHIGA 輝く障スポ」競技別会期(案)について説明。原案どおり承認された。

##### 【質疑】

<委員> 水泳競技は今まで3日間の開催であったのが、2日間になった。2日間でも競技ができるようにスケジュールを組んでいただいていると思うが、朝の集合時間が早かったり、ホテルへ帰る時間が遅くなったりすると、朝食や夕食が取れない宿も出てくる。2日間に短縮したことで選手に負担がかかる事がないよう、輸送計画と競技の開始時間は連携を取っていただきたい。

<事務局> 水泳競技については、競技を効率的に行う点と、閉会式でのおもてなし広場を楽しんでいただくという選手ファーストの観点を大切にしたいほか、主会場への交通の便を考慮し競技日程を短縮した。時間的なシミュレーションを立てた上で今後も検討していく。

※事務局から、「わた SHIGA 輝く障スポ」競技開始式・表彰式実施要項(案)について説明。原案どおり承認された。

##### 【質疑】

<委員> 今年の佐賀大会のコンセプトとして、セレモニーを大事にしたいと書かれている。かごしま大会のボッチャ競技の表彰式では、マイクの声が小さい、表彰される名前の順番がバラバラといったトラブルがあった。競技運営主管団体とセレモニー担当とが十分協議をして、せっかくの機会を大事にしてあげてほしい。

<事務局> 当局の職員も視察する中で、セレモニーの運営が不十分と感じる会場もあれば、表彰している高校生の所作が素晴らしいという会場もあった。我々は素晴らしかった会場を見本にしながら準備を進めて参りたい。

※事務局から、「わた SHIGA 輝く障スポ」情報保障体制整備基本方針(案)について説明。原案どおり承認された。

##### 【質疑】

<委員> 筆談等の情報保障について、コミュニケーションボードを用意していただきたい。A4 の大きさでラミネート加工等をして、いつでも指差して素早く対応できるような配慮があると良い。各競技のホテル、競技会場、輸送の場などに置いて準備していただけるとコミュニケーションが正しく行えると思うが、その予定はあるのか。

<事務局> コミュニケーションボードについて作成等のご意見等をいただきながら、今後検討を進めて参りたい。

<委員> 1点目は、今後のスケジュールを確認したい。2点目は、今後詳細を詰めていく中で、障害当事者の方の意見も汲んでいただけるように工夫をお願いしたい。3点目は、デジタル音声配信等による実況

放送について、どのようなものを想定されているのか。

<事務局>スケジュールについては、今年度基本設計を行い、来年度はより詳細な実施設計を実施する予定。基本設計では、各会場の大まかなゾーニング等を決めている。来年度、多目的トイレ等のバリアフリーについても具体的に詰めていく。その中で、必要な対応についてはしっかりと対応し、障害当事者や団体の意見を汲む工夫を進めたい。

デジタル音声配信等による実況放送については、佐賀県が先行して取り組んでいる「プラットキャスト」による実況放送を予定している。かごしま大会のグランドソフトボール競技では、QRコードを読み取る形で競技運営主管団体が実況していただいていた。これまではFMラジオを使っていたが、より聞き取りやすくするためにも、滋賀県大会では「プラットキャスト」を導入したい。

<委員>当日の要約筆記の映像装置モニターなどについても、ふりがな表記はできるのか。

<事務局>開会式のモニターに映る文字については、ふりがなを打ったうえで行う。

## 説明事項

※事務局から、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ式典実施計画(案)について説明。原案どおり承認された。

【質疑なし】

※事務局から、「わた SHIGA 輝く障スポ」おもてなし広場基本計画(案)について説明。原案どおり承認された。

【質疑】

<委員>おもてなし広場は多くの方が交流を兼ねる場であり、店員の方々の障害者に対する理解も必要だと思う。そのような方への研修は考えていただいているのか。障害者理解についての簡単なテキストを皆さんに配布したらどうか。

<事務局>開催年である令和7年8月には出店いただく業者・団体様が決まっているので、このタイミングで出展者向けの説明会を開催し、マニュアルを配布させていただくので、その中で障害者理解についての内容を記載することも検討する。

<委員>選手はおもてなし広場でお土産を買うことを楽しみにしているが、中でも人気なのは大会のグッズ。陸上競技会場などの大きな会場となると、T シャツなどの買いたいサイズがないことがあるので、この点も配慮いただきたい。

<委員>ゴールボールや、伴走の体験ブースをぜひ作っていただきたい。体験ブースなどがあれば、障害のあるなしに関わらず子供たちも参加できて、これからの伴走者の養成に繋がっていくと思う。

<事務局>我々もイベント等で競技体験を設けたいと考えているので、ご意見を参考にしながら実現できるようにしたい。

<委員>体験ブースができる場合は、私も参加したり、知り合いの伴走者に参加を呼び掛ける等協力する。

※事務局から、「わた SHIGA 輝く障スポ」大会役員編成基準(案)について説明。原案どおり承認された。

【質疑】

<委員>日本身体障害者水泳連盟等の団体名は日本パラ水泳連盟に名前が変わっているので、修正をお願いする。

※その他

<委員> 前回の専門委員会の際、競技運営主管団体がかごしま大会の協力審判員として参加していただきたい旨を言っていたが、かごしま大会の水泳競技では実際に協力審判員として競技に入ることができた。水泳連盟の先生方も、他県の水泳連盟の方と横の繋がりができ、滋賀大会の協力体制の話まで進んだと聞く。水泳以外の競技で、競技運営主管団体が競技運営に関わられた例があれば教えていただきたい。

<事務局> 陸上競技や、フライングディスクの競技については実際に協力審判員として入っていただいていると把握している。その他の競技も視察として運営面を見ていただいている。事務局では、佐賀大会で運営に入っただけでないかと打診をしているので、引き続き進める。今大会から事務局の競技運営担当者が鹿児島県の職員と一緒に各競技の運営に携わらせていただき、やらなければならないことが分かってきた。ご意見を踏まえながら、今後、本大会に向けて準備を進める。

<委員> リハーサル大会の実施方法について、選手の少ない種目については他府県の大会と一緒に開催するという話があったが、どのように検討されているか。

<事務局> 選手の少ない競技については、できるだけ本大会の規模に近い形で開催できるように、参加選手の範囲を広げられないか競技運営主管団体と話を進めている。基本的にはこれまでの県大会の規模感でリハーサル大会を実施し、プラスアルファについてはこれから検討する。

<委員> 県大会は滋賀県障害者スポーツ協会が県から委託を受けてやっているが、なかなか参加人数が増えない競技もある。そのような競技については、近隣府県の選手も招待できると良い。特にアーチェリー競技や水泳競技は参加者数が少ない。近隣府県への声掛け等協力する。

<委員> リハーサル大会は、役員の方が県内にはおられない障害の方を見ていただく大事な機会だと思う。

<事務局> アーチェリー競技を含めて、より本大会に近い規模感で行う話も具体的に出ている。滋賀県障害者スポーツ協会の協力を得ながら、一緒に進めて参りたい。

<委員> ボランティアの方には、自閉症や知的障害、発達障害のことを勉強して配置についていただきたい。また、国スポの後に全国障害者スポーツ大会があることが多い。新聞のプラスワンなどに、国体の有力な選手や団体、県の対談や、障スポの関係者の対談を載せると良いのでは。

<事務局> 知的障害・発達障害の方々の応援について、スタッフにも研修を行い、ご支援がしっかりと届くようにしたい。広報の件について、障スポはまだまだ十分でない。今後ますます力をいれて広報をしたいので、ご意見をいただきたい。

<委員> 障スポも大々的に宣伝しなければならない。メディアを通じて、私も周知させていただきたいと思う。閉会式について、東京大会では EXILE のコンサートが行われ、大変盛り上がった。滋賀でも盛り上げるべく西川貴教さんと呼んでいただいたりして、盛り上げてほしい。

<事務局> 閉会式では、全国から来られる方に楽しんでいただける仕掛けをしたいと考えている。今の段階で誰が来るかは言えないが、ご期待に沿えるように頑張っ参りたい。

<委員> 国スポ・障スポのコマーシャルは非常に大切だと思うが、字幕や手話通訳が付いていないので、びわこ放送では積極的に情報保障をつけ、情報支援ボランティアも併せて発信していただきたい。開会

式・閉会式はみんなが見て楽しめる内容を検討していただきたい。

<事務局>びわこ放送の commercials に、手話通訳・字幕がないのは仰る通り。びわこ放送にもご意見があったことをお伝えして、改善できないか相談する。また、開会式・閉会式の会場で手話通訳の方々や字幕等は用意する。開会式・閉会式では、アナウンサーや司会者の方々に、目の見えない方のために会場の様子等の情報を交えながら司会をしていただくこともできるのではないかと考えている。色々な情報提供の仕方があると思うので、工夫をしながら準備を進めたい。

<委員>いよいよ大会が近づいてきたと改めて思っている。カームダウンスペース等の初めての試みもたくさんあるので、国スポ・障スポだけで終わるのではなく、今後どれだけ形として残っていくかが、滋賀県開催の価値になると思う。

<委員>滋賀大会に向け、それぞれの競技運営主管団体、選手が準備をしているところ。1人でも多くの方が貴重な体験をしていただきたいと考えており、それぞれの競技会場でたくさんの方に見ていただけるような場を提供したい。障スポについては、まだまだ知られていないので、我々も啓発をしていかなければならないと感じている。皆さんと力を合わせながら、国スポ・障スポがもっと盛り上がるように、準備を進めたい。